

東名高速道路 (仮称)岡崎阿知和スマートIC
実施計画書
【概要版】



令和元年8月
岡崎市



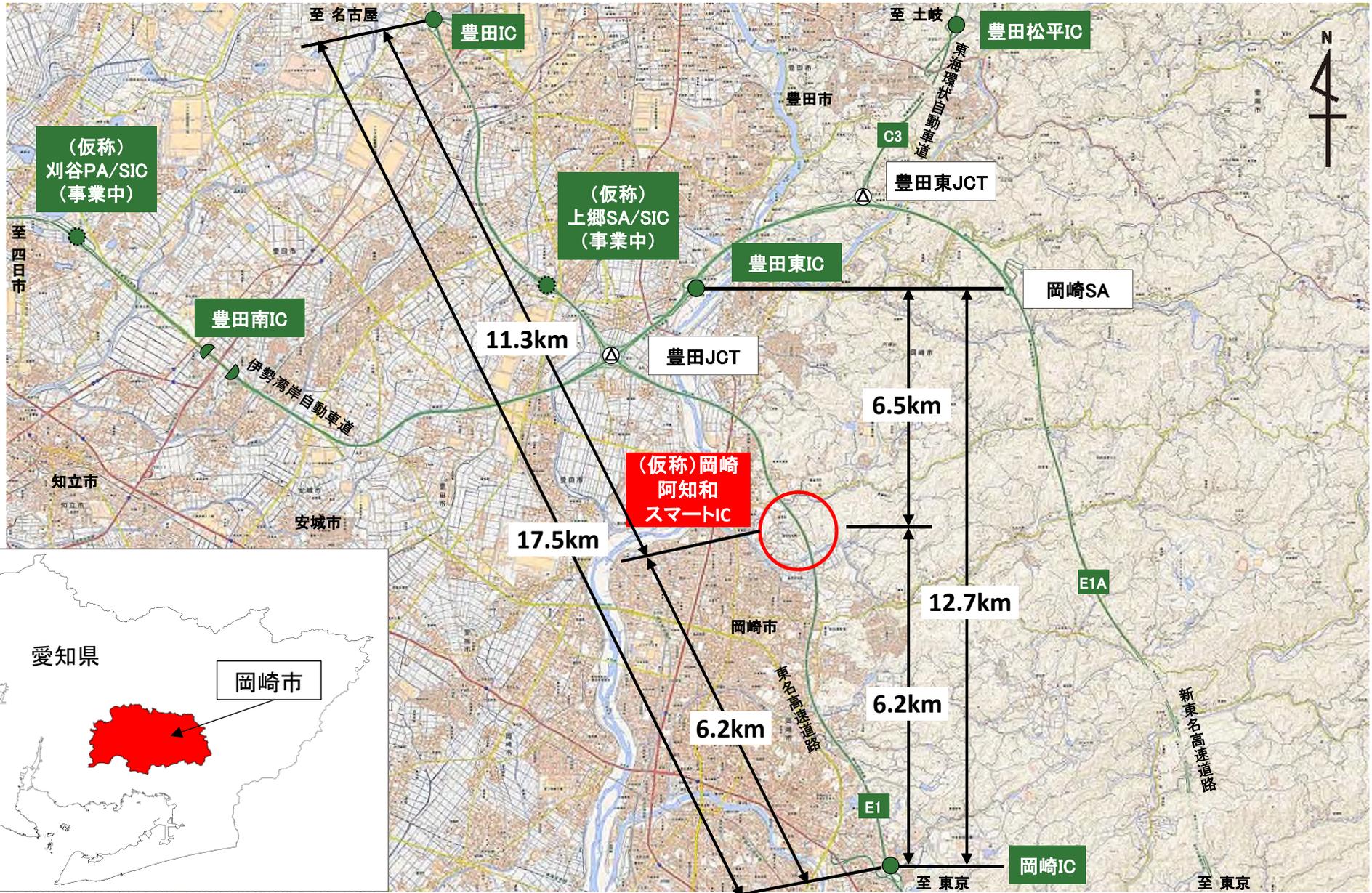
©R.S.H/RUNE

1. 路線名	3
2. 連結位置及び連結予定施設	4
3. 連結を必要とする理由	5
4. 管理・運営形態	6
5. スマートICの設置により期待される整備効果	7
6. 概略図面、その他必要な図面	12

1. 路線名

[路線名]

第一東海自動車道(東名高速道路)



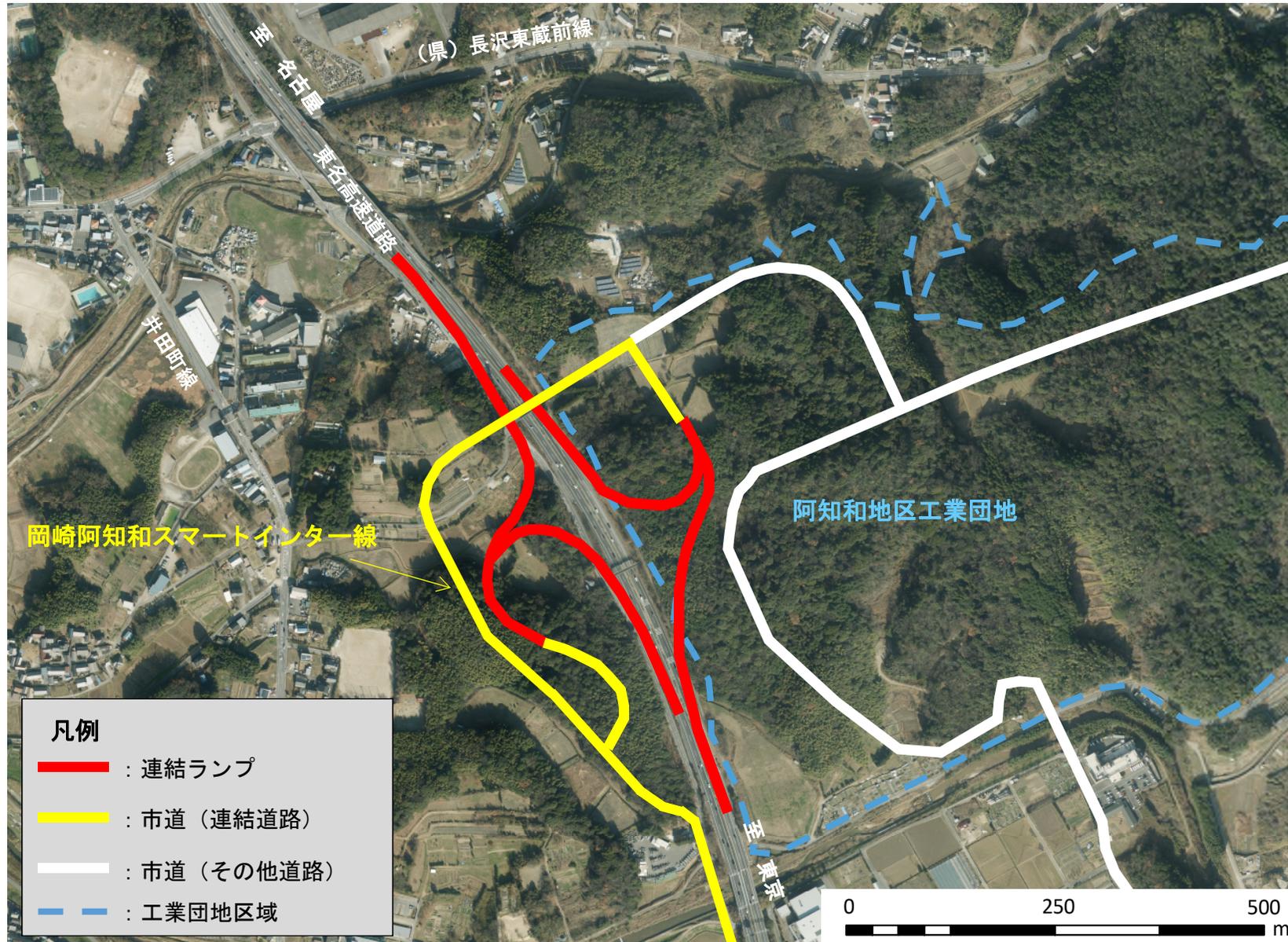
2. 連結位置及び連結予定施設

[連結位置]

おかざきしにしあちわちようあざかみやまのた
岡崎市西阿知和町字上山ノ田

[連結予定施設]

上下線：市道岡崎阿知和スマートインター線



(仮称)岡崎阿知和スマートICの設置により

➤ 産業活動の支援

- 西三河地域(豊田市、岡崎市を含む10市町)は、自動車産業をはじめとしたものづくりの中心地である。製造品出荷額は、全国2位の神奈川県を上回るとともに、ほとんどの市町が上位にランクしている(スマートIC予定地の岡崎は12位)。
- 阿知和地区工業団地は、経済界や進出希望企業から早期整備の要望があり、スマートICの設置により、名古屋方向等への物流の効率化が大いに見込まれ、立地企業のさらなる発展が期待される。

➤ 交通渋滞の緩和

- 隣接ICへのアクセス経路として利用されている国道1号、国道248号では、交通集中により混雑度が1.0を超過。
- 隣接ICへの経路上に主要渋滞箇所も点在し、ピーク時には著しい速度低下が発生。
- 更なる地域経済の発展のためには、主要渋滞箇所を回避して高速道路にアクセスできることが必要。

➤ 地域活性化・観光振興

- 岡崎市内には、岡崎城や家康公ゆかりの施設、ぶどう園などの観光資源が多数存在するが、岡崎ICと岡崎城・岡崎公園を結ぶ直線的な動きが主となっており、他のスポットへの回遊が少ない傾向にある。
- 観光に訪れる来訪者の約8割が自動車利用であるが、市街地近郊のICは岡崎ICしかなく、岡崎市北部地域の周遊観光のため新たなICが必要。

➤ 防災機能の強化

- 岡崎市北部には防災拠点がないため、令和2年に工事完了予定の龍北総合運動場を防災拠点に位置付ける予定。
- 龍北総合運動場は岡崎ICから遠く、被災時の物資輸送等の救援活動に支障があると想定されるため、復旧支援拠点へのアクセス機能確保が必要。

①運営形態:フルインター形式

②利用方向 I N :東京方面上り線、名古屋方面下り線
OUT:東京方面上り線、名古屋方面下り線

③運用時間:24時間

④対応車種:ETC車載器を搭載した全車種
(軽自動車等、普通車、中型車、大型車、特大車)

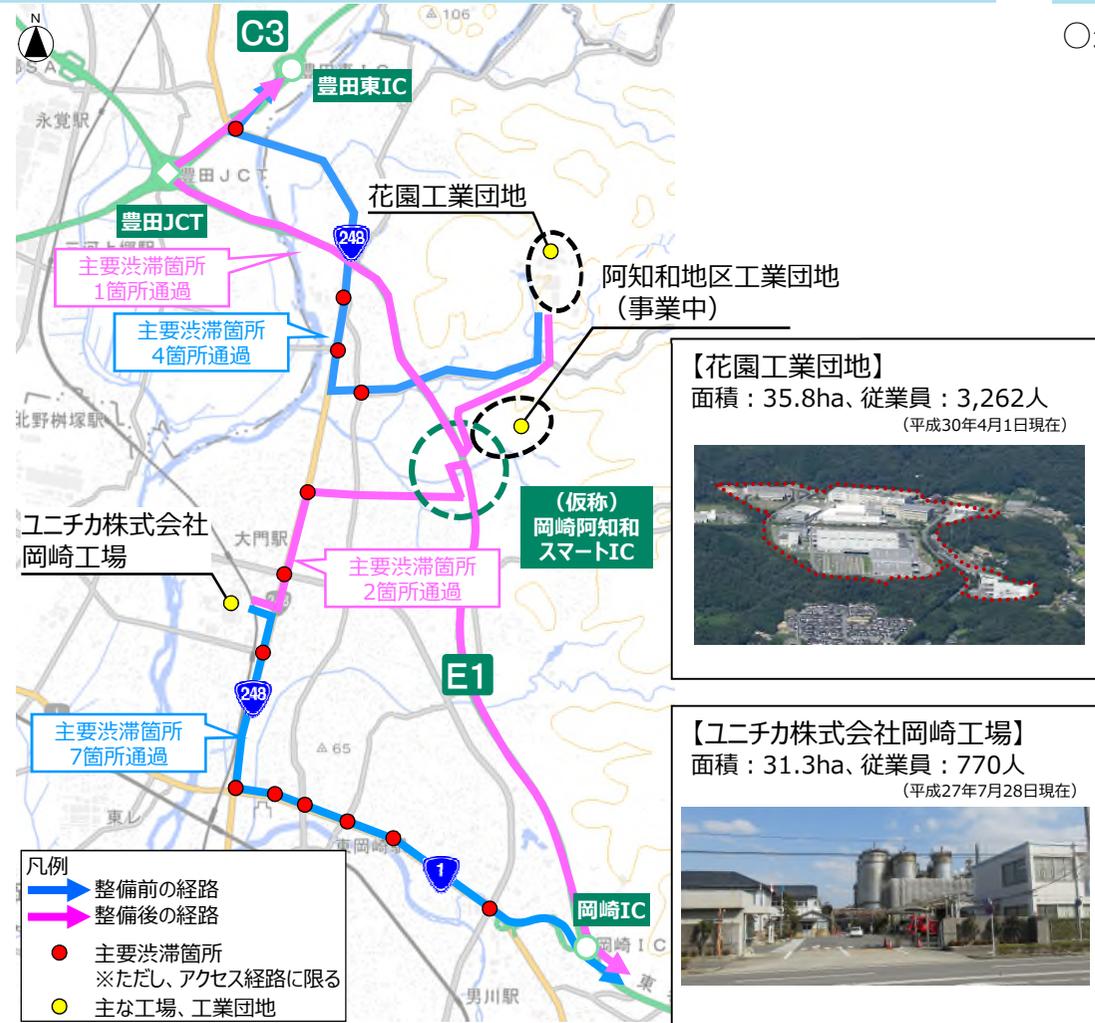
※当該IC供用後も継続して、管理・運営形態を定期的にフォローアップし、必要に応じ見直す。

5. スマートICの設置により期待される整備効果

(1) 産業活動の支援①

- 岡崎市内の主な工場から高速道路を利用した物流経路には、主要渋滞箇所が多く存在。
- (仮称)岡崎阿知和スマートICの整備により工場から最寄ICまでの距離が短縮し、高速道路を利用する物流輸送時の所要時間も短縮。物流車両の人件費や燃料費等の物流コストの削減等、製造業企業を中心とした物流効率化を支援し、企業の生産性向上に寄与。

◆工場からの高速道路利用経路の変化

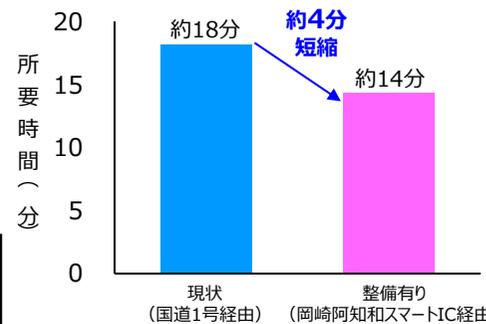


◆最寄ICへのアクセス性の向上

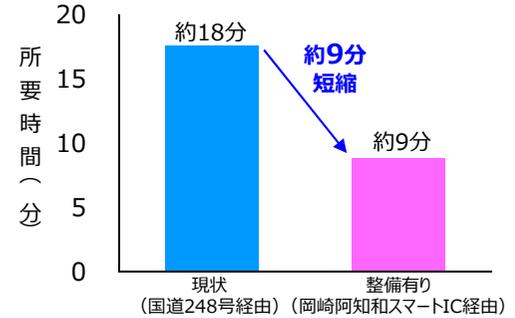
○最寄ICまでの所要時間の短縮

出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
混雑時旅行速度より所要時間を算出

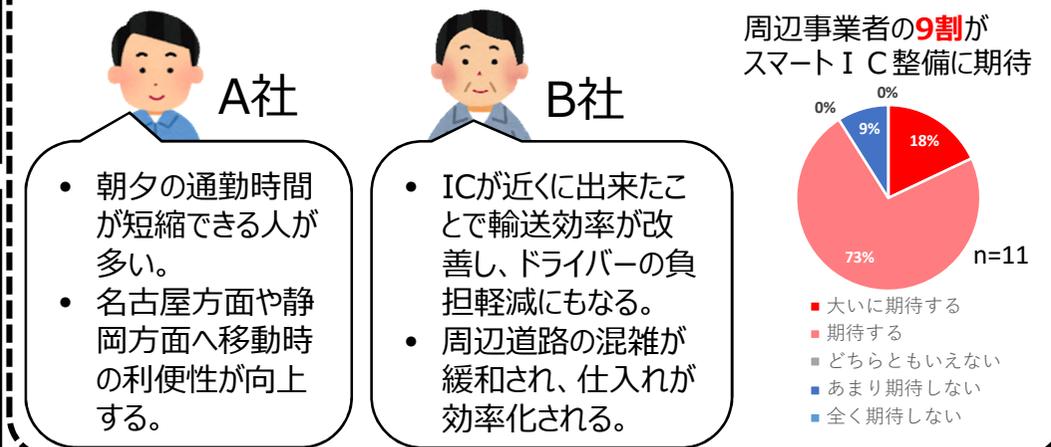
■ユニチカ株式会社岡崎工場→岡崎IC



■花園工業団地→豊田東IC



○周辺事業者へのアンケート調査結果 (平成28年度)



(1) 産業活動の支援②

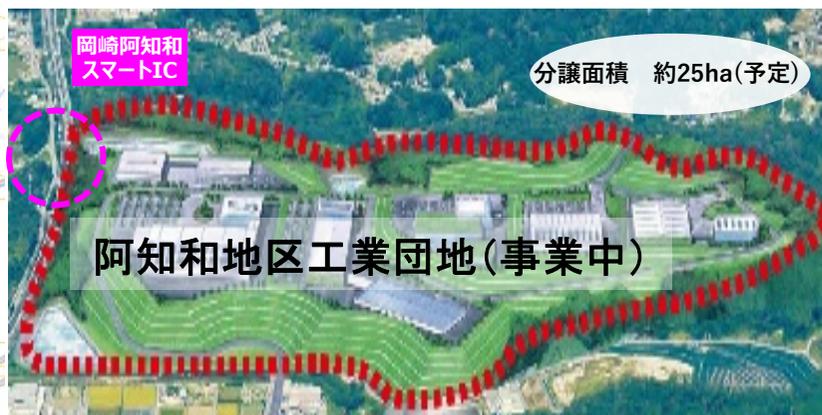
- 令和6年度分譲予定の阿知和地区工業団地から高速道路を利用する場合の物流輸送時の所要時間が短縮。
- 阿知和地区工業団地での事業用地取得を検討する企業からは、運搬・移動等の時間が短縮される、通勤時間の短縮が可能になる等の効果に期待が寄せられており、スマートIC設置が阿知和地区工業団地の企業誘致および従業員の雇用促進に貢献することが期待される。

◆工場から高速道路利用経路の変化



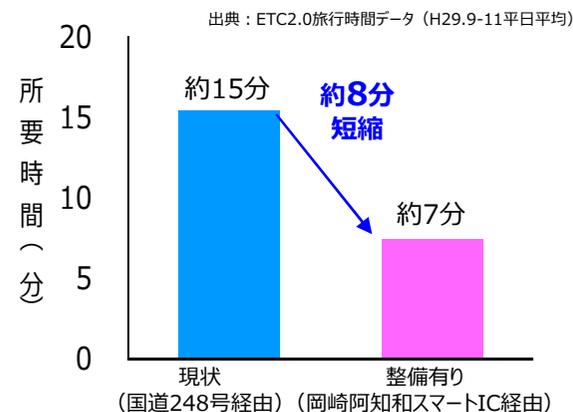
◆高速道路を利用した物流の所要時間

<阿知和地区工業団地の整備イメージ>



工業団地から高速道路スマートICまで直結(500m、1分)

○阿知和地区工業団地 → 豊田東IC



○阿知和地区工業団地参入を希望する事業者からの声 (平成30年度)



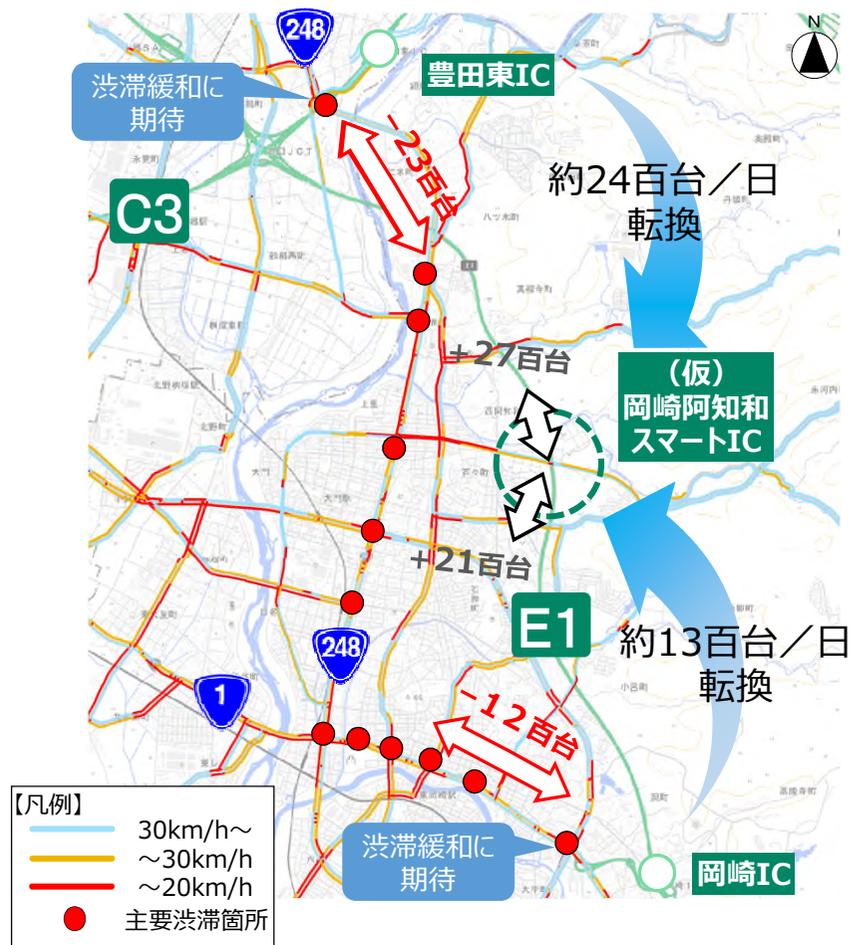
- 運搬、移動、通勤などの時間が短縮される
- 従業員の募集範囲が拡大する
- 渋滞に巻き込まれない
- 緊急時の運搬・移動が可能となる

(ヒアリング回答：4社)

(2) 渋滞緩和

■ 隣接ICから(仮称)岡崎阿知和スマートICへの転換により、隣接ICへのアクセス道路の交通量が減少し、IC周辺部の渋滞損失時間が減少。

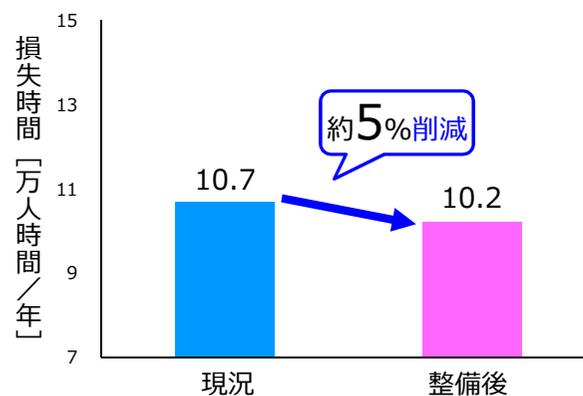
◆周辺道路の渋滞緩和



<損失時間の算出方法>

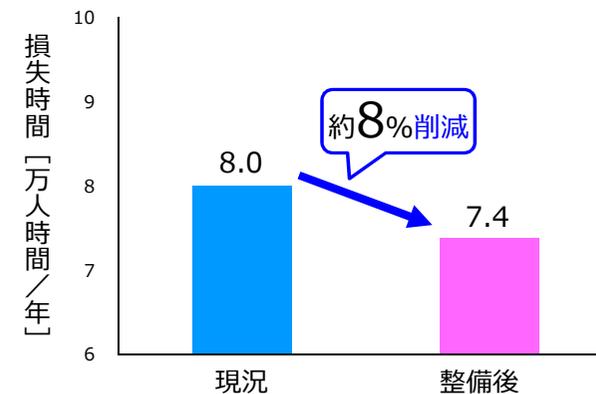
- 岡崎IC周辺(欠町交差点)
- 現況: H27センサス交通量及びETC2.0旅行時間データより算出
- 整備後: 交通量推計により整備無し・有りにおける損失時間の変化率を求め、整備無し時の損失時間に乘じて算出
- 豊田東IC周辺(鷺鴨町郷上交差点)
- 現況、整備後: 交通量推計より

・豊田東IC周辺



出典: 速度、交通量...交通量推計

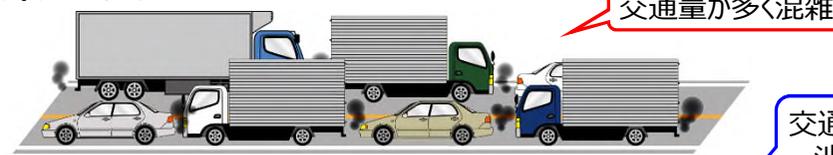
・岡崎IC周辺



出典: 速度...ETC2.0旅行時間データ (H29.9-11平日平均)
交通量...平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査

<整備効果イメージ>

整備無し

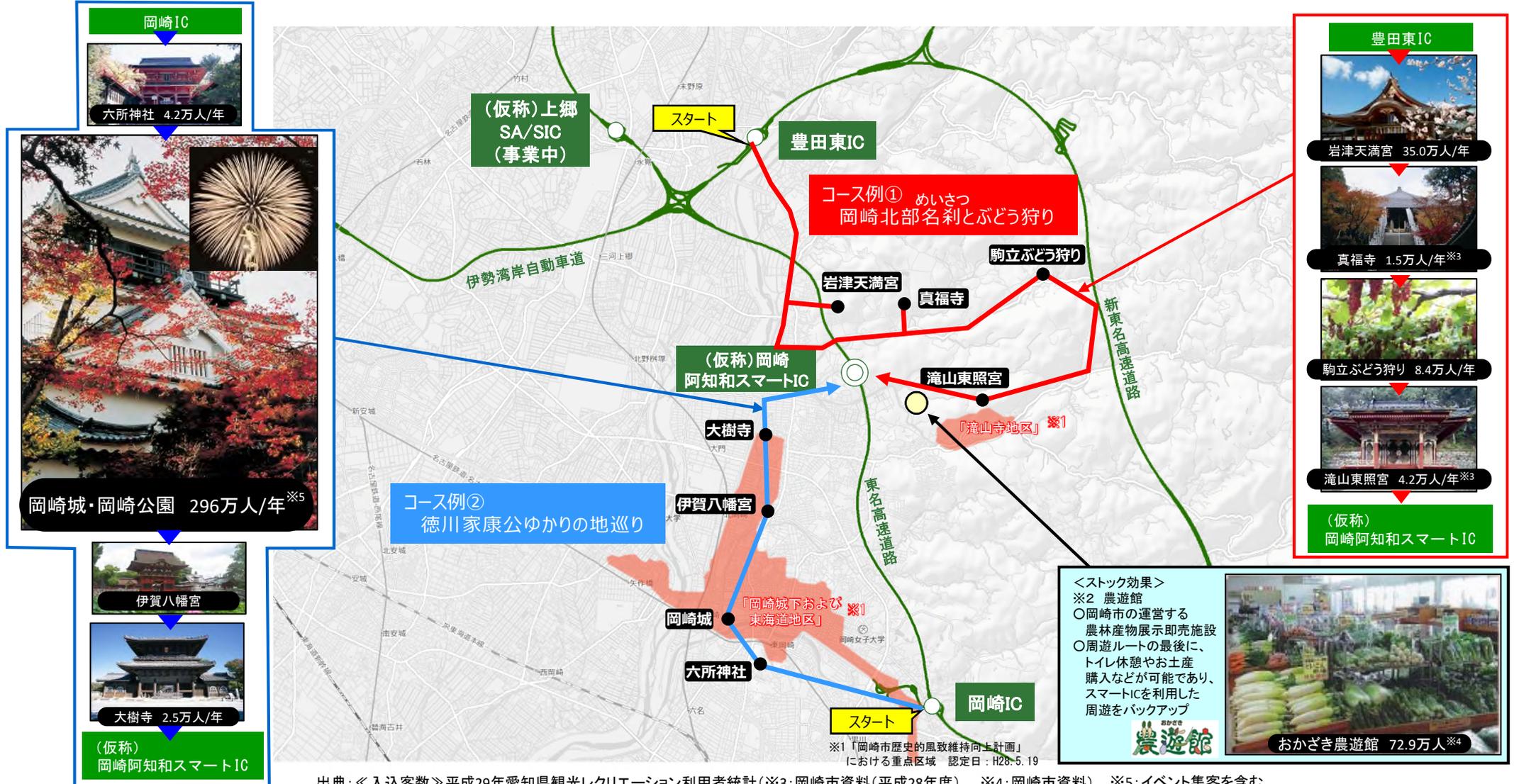


整備有り



(3) 地域活性化・観光振興

- 観光地の駒立ぶどう狩りは、岡崎市の観光施設の中でも最寄ICから遠く、高速道路からアクセスしにくい。
- 整備後は複数の高速ICを利用することで、最寄ICから距離が遠い観光施設を周回する観光周遊コースが形成可能。



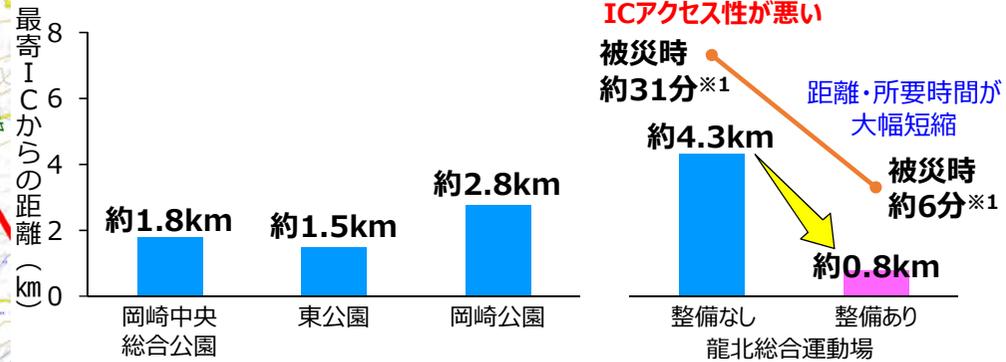
(4) 防災性向上

- 龍北総合運動場が令和2年の供用開始予定であり、供用後は地域防災計画に「防災拠点」として位置づける予定であるが、最寄ICからのアクセス性が悪く、被災時の物資輸送等の救援活動に支障がある。
- 整備後は最寄ICからの距離が約0.8kmとなり、被害時に想定される所要時間は約25分短縮し、防災活動の支援に寄与。



◆ 防災拠点のICアクセス性の向上

○最寄ICから防災拠点までの距離



*1 所要時間：阪神・淡路大震災（平成7年）における被災地内の平均輸送速度（被災8日目以降～1ヶ月以内：8.4km/h）より算出
 出典：中下・小谷・長岡 震災時における避難所への救援物資輸送の実態について（土木計画学研究・講演集 No.19(2) 1996.11）

【龍北総合運動場】

- ・岡崎市により龍北総合運動場として再整備し、令和2年の供用開始を予定。
- ・第一次緊急輸送道路である東名高速道路沿線に位置しており、供用後は地域防災計画に「防災拠点」として位置づける予定。

【完成イメージ】



出典：（仮称）龍北総合運動場整備基本計画

6. 概略図面、その他必要な図面

(1) 平面図(1/1,000)

